

受賞者氏名	福田 由紀	
所属	文学部心理学科	
受賞年月日	2023年9月24日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	計量国語学会	
受賞名	2022年度計量国語学会論文賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>論文名:品詞構成に基づく文体指標は読者の印象とどのように関わるか—MVRと品詞構成率の心理学的検討—</p> <p>著者:井関龍太(大正大学)・菊池理紗(法政大学大学院ライフスキル研究所, なお, 本研究遂行当時の所属, 現所属は法政大学兼任教員)・望月正哉(日本大学)・福田由紀(法政大学)・石黒圭(国立国語研究所)</p> <p>雑誌名:計量国語学第33巻第7号 2022年12月20日</p> <p>内容:日本語による文章の文体特徴は, MVR(Modifier-Verb Ratio)で表すことができます。MVRとは, 形容詞や形容動詞, 副詞, 連体詞であるMを動詞であるVで割った数に100を掛けた値です。小説などの名詞率が低い文章において, MVRは描写的表現を担っていると考えられます。小説などの文章において, MVRが高い場合には情景や色の状態などの様子といった「ありさま描写」が中心となります。一方, 低い場合には登場人物の行動や場面の变化などが描かれ「動き描写」が中心となります。このようなMVRについて, 樺島・寿岳(1965)は実際の小説の文章を分析し, 文体論を展開しました。</p> <p>本研究では, テキストを中心とした分析ではなく, 文章を読んだ読み手がどのように感じているのかに焦点をあてました。具体的には, 文章のMVRと読み手の印象との関係を探索的に検討しました。その際, 読み手の印象として, ありさま描写に対応する印象としてイメージ性, 動き描写に対応する印象として展開の早さについて回答してもらいました。</p> <p>その結果, 想定通りの関係性は認められませんでした, 文章中の品詞構成と読者が抱く文体印象との間に一定の相関関係があることがうかがわれました。主観的印象という心理学的な観点から文体の問題に取り組むことによって, 計量的分析の手法の洗練化や分析概念の明確化につながる可能性を示しました。</p> <p>なお, 計量国語学会「論文賞」は Best Innovative Paper Award と英訳されており, 文体論と読み手の印象の関係を検討するといった革新的な本論文のアプローチが評価されました。</p>	